

えほん👑世界のおはなし

シンデレラ

こみねゆら●絵 角野栄子●文



〈著者紹介〉

こみねゆら

熊本県生まれ。東京芸術大学大学院修了。1985年、フランス政府給費留学生として渡仏。8年間滞在し、フランスではじめての絵本を出版する。主な絵本に「パメラ・パティエ・ボッスのあたらしいいえ」（教育画劇）、「白いねこ」（偕成社）、「仏蘭西おもちゃ箱」（白泉社）、装画・さし絵に「妖精王の月」（講談社）、「雨ふり花さいた」（偕成社）など多数。現在東京都在住。

角野栄子（かどの えいこ）

東京都生まれ。早稲田大学教育学部卒業。1959年から2年間ブラジルに滞在し、帰国後、童話や絵本の創作に専念。1982年、「大どろぼうブラブラ氏」（講談社）で産経児童出版文化賞大賞を受賞。1986年、「魔女の宅急便」（福音館書店）で野間児童文芸賞・小学館文学賞・IBBYオナーリスト賞を受賞。著作多数。現在東京都在住。



えほん^{世界のおはなし}⑧
シンデレラ

N.D.C.726 32p 26cm

1999年11月1日 第1刷発行

絵◎こみねゆら

文◎角野栄子（かどの えいこ）

A D◎坂川栄治

デザイン◎藤田知子（坂川事務所）

発行者◎野間佐和子

発行所◎株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-8001

電話／東京03-5395-3534（編集部）

東京03-5395-3625（販売部）

東京03-5395-3615（製作部）



印刷所◎共同印刷株式会社

製本所◎大村製本株式会社

©Yura Komine/Eiko Kadono 1999 Printed in Japan（児幼）

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。

送料は小社負担にておとりかいたします。なお、この本についてのお問い合わせは児童局幼児図書出版部あてにお願いいたします。

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

定価はカバーに表示してあります。

ISBN 4-06-267058-5

えほん👑世界のおはなし

シンデレラ

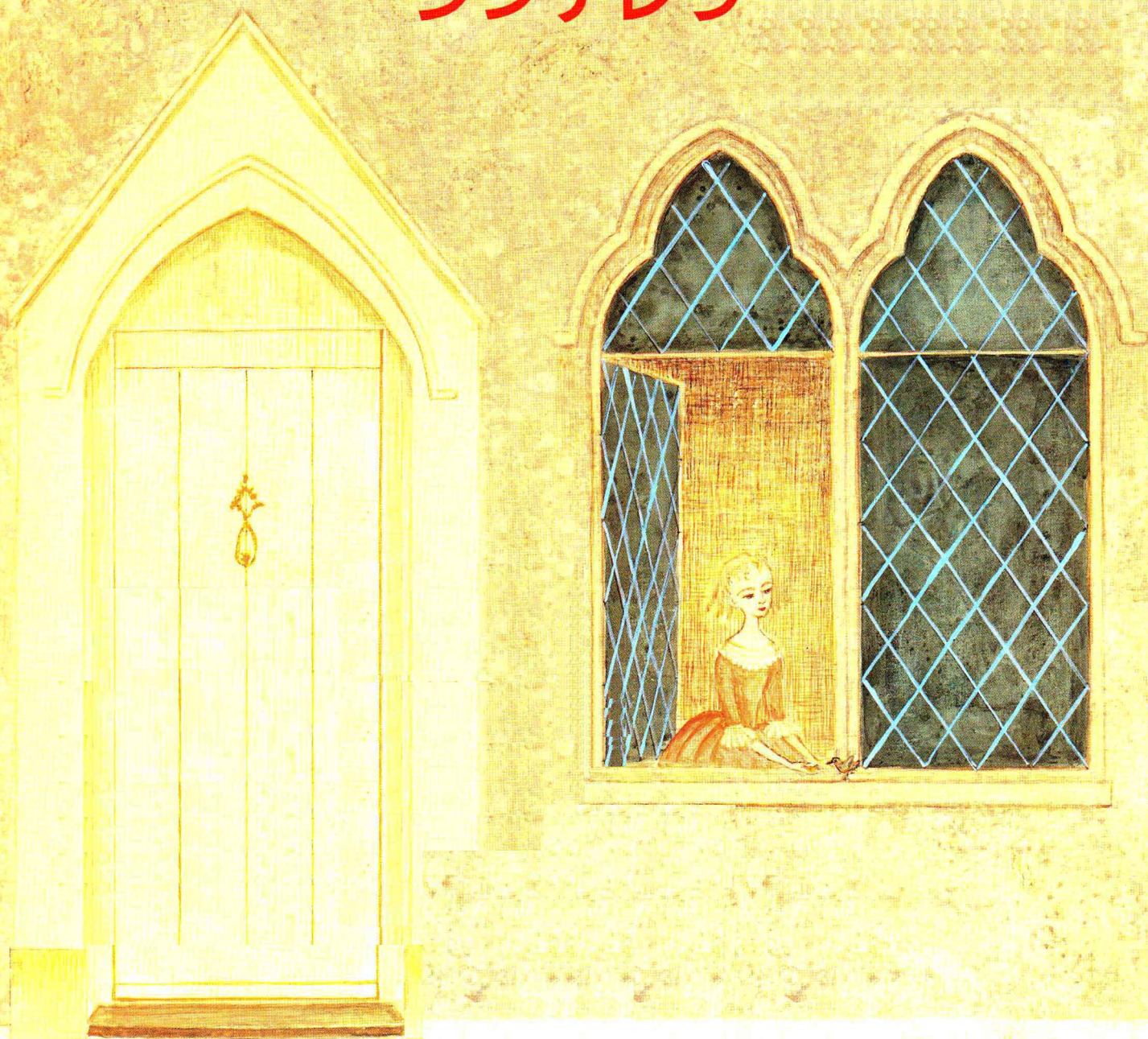
こみねゆら●絵 角野栄子●文



江苏工业学院图书馆
藏书章



しん で れ ら シンデレラ



むかし ある ところに、こころの やさしい むすめが
いました。おかあさんが しん で しまったので、おとうさんは
2 だめの けっこんを する こと に なりました。





あたらしい おかあさんは ひどく いじわるで、こころの やさしい
むすめに つらく あたりました。そまつな ふくを きせ、せんたくや
ゆかみがきなど、たいへんな しごとばかり おしつけました。

きのどくな むすめは しごとが すむと、かまどの そばの
ちょっぴり あたたかい はいの ^{うえ}上で、ひとやすみしました。

それで、この ^こ子は、^{しん}シン^でデ^れラと よばれて からかわれました。

^{しん}シン^でデ^れラと いうのは「はいだらけ」と いう いみなのです。

あたらしい おかあさんは、つれて きた ふたりの じふんの
むすめたちばかり かわいがり、うつくしい ^{どれす}ドレスや ごうかな
へやを あたえました。

でも、^{しん}シン^でデ^れラは やねうらべやで、わらの ふとんに くるまって
ねむりました。



あるとき、このくにの^{おうじ}王子さまが
ぶとうかいを ひらく ことに になりました。

ふたりの おねえさんたちも しょうたいされました。

おねえさんたちは、この^{どれす}ドレスに しょうかしら、あの^{りぼん}リボンを つけて いこうかしらと、^{おお}大さわぎです。

^{しん}シンデレラは、ふたりの かみを ゆって あげました。

「あんたも いきたい？」と、^{うえ}上のおねえさんが いいました。

「わたしが？ まさか……いける わけが ないわ。」

^{しん}シンデレラは こたえました。

「そうよね。はいだらけが いくなんて、おかしいわよね。」

^{した}下の おねえさんが いいました。





ほんとうは シンデレラ^{しんでれら}も いきたかったのです。

おねえさんたちが でかけると、シンデレラ^{しんでれら}は こらえきれず、
わっと こえを あげて、なきだしました。

「どう したの。」

この 家^{いえ}の ようせいが でて きて たずねました。

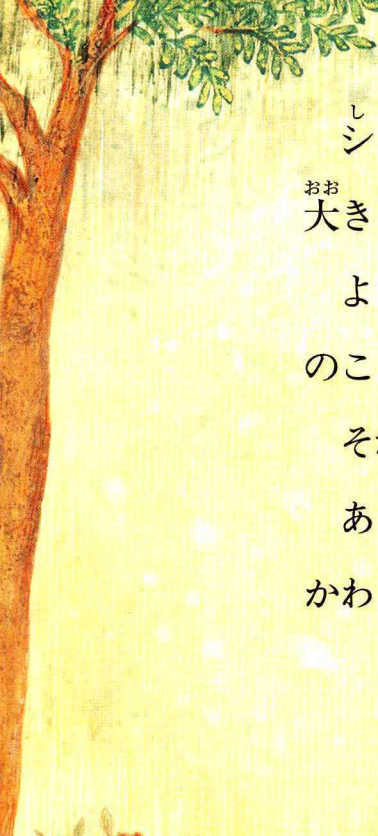
「わたしも おとうかいに いきたいの。」

「わかったわ。じゃあ はたけに いって、かぼちや^{ひと}を 一つ
とって おいで。」

と ようせいは いいました。







^{しん}で^れら シンデレラは ふしぎに おもいながら、はたけから いちばん
^{おお}大きくて りっぱな かぼちゃを とって きました。

ようせいは なかを くりぬいて、かぼちゃの かわだけを
のこしました。

それから、もって いた つえで たたくと、どうでしょう。

あっと いう まに、かぼちゃは ぴかぴかの ^{ばしゃ}馬車に
かわったのです。



つづいて ようせいは はつかねずみを ^{ろっ}6ぴき つかまえると、
^{いっ}1ぴきずつ ついで たたきました。すると ねずみは、^{ばしゃ}馬車を
ひく ^{ろく}6とうの うまに かわりました。

つぎに、^{おお}大きな ねずみを ^{いっ}1ぴき えらび、また ついで
たたいて、どうどうと した ^{ぎよ}ぎよしゃに かえました。



それから、^{ろっ}6匹きの とかけを つかまえて きて、^{ろくにん}6人の
けらいに しました。

こう して、りっぱな ^{ろく}6とうだての ^{ばしゃ}馬車が できあがりました。
「よかったわね、^{しん}シンデレラ。^{でれら}。これで おとうかいに いけますよ。」
ようせいは いいました。



「でも、こんな みすぼらしい すがたでは、
いけないわ。」

シンデレラは かなしそうに いいました。

すると ようせいは、ついで シンデレラに
さわりました。

とたんに そまつな ようふくは、
きらきら ほうせきの かがやく ドレスに
かわりました。

ようせいは うつくしい ガラスの くつも
くれました。

シンデレラが 馬車に のりこむと、
ようせいは いいました。

「よなかの 12じまでには、かならず
かえって くる こと。もし まもらないと、
まほうが とけて 馬車も ドレスも もとの
すがたに もどって しまいますよ。」

「はい、わかりました。」

シンデレラは やくそくしました。



